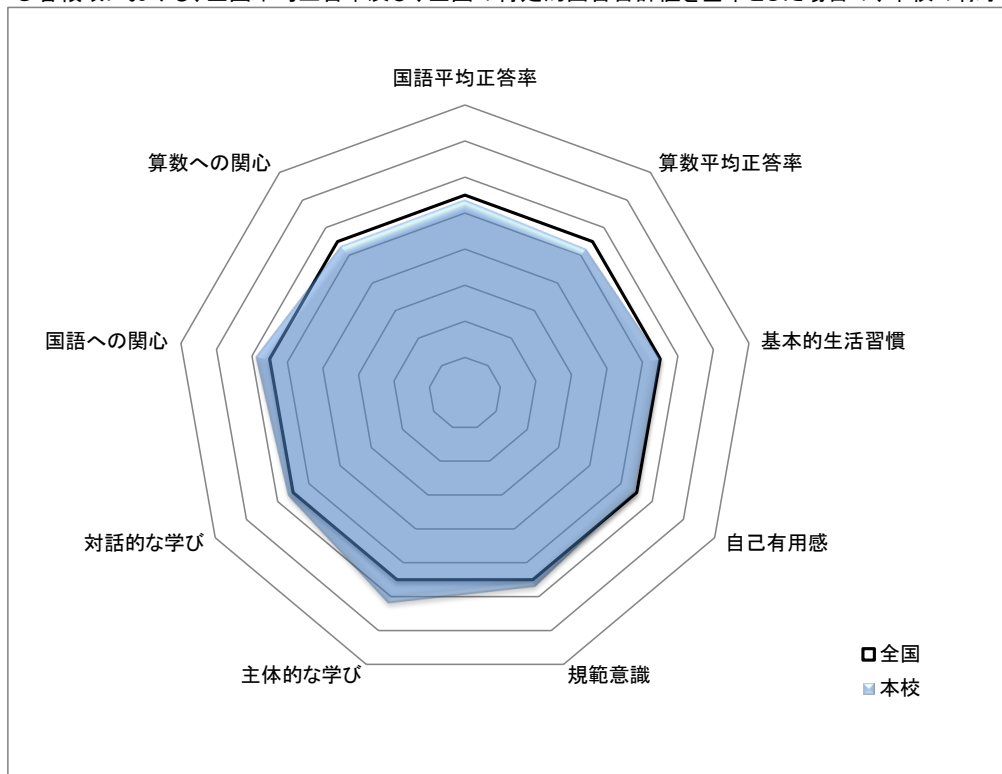


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語】
 ◆「書くこと」は、+5.4ポイント、「読むこと」は-6.1ポイント、「話すこと・聞くこと」が-0.5ポイントと下回っており、「読むこと」に問題に課題を有する。
 ◆「学年別漢字配当表に示されている漢字文の中で正しく使うこと」、「文における主語述語との関係を捉えること」、「人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えること」の出題が、全国平均と比べると問題の正答率が大幅に低い。
 ◆短答式の問題の正答率が低い。
 【算数】
 ◆全ての領域において、全国平均を下回っていた。特に「図形」の「体積を求める問題」では、これまでに学習した球の直径の長さや立方体を構成する要素との関係を考察する力が定着していない。

《授業改善のポイント》

【国語】
 ◆相手の話す内容や伝えたい文章について、相手の意図をくみ取れるように、要点にラインを引きながら確認ができるように指導する。「話すこと」については、ペアやグループ活動を重視しながら、交流する場を適宜設け、相手に意図が伝わるような話す活動を積極的に取り入れる。
 ◆「読むこと」については、長文を最後までしっかり読んで内容を理解させるために読書の時間を充実させる。必要場合は音読も行う、文章の意味や主語・述語の関係を読み取ることができるようになる。
 ◆漢字については問題により正答率が大きく変わることから、普段の授業だけでなく、学校生活や行事等においても各活動を積極的に取り入れ、当該学年の漢字を使って書けるように指導していく。
 【算数】
 ◆「計算」は、文章から読み取っての立式に課題が見られたため、国語の文章読解にも力を入れながら、問題文から場面を理解させ、数量関係を捉えられるようにする。
 ◆文章題から立式の根拠になる言葉を読み取り、課題を図示するなどして全員が分かるようにする。
 ◆展開図や体積の求め方について、図で示しながら児童同士で考えを交流させたり、全体に説明させたりする活動を多く取り入れる。
 ◆速さを求める問題に対しては、数直線や図を活用しながら丁寧な指導を繰り返す。
 【共通】
 ◆毎週水曜日の朝の時間の「篠小タイム」でのミライシードの活用及び「YOMUよむ」ワークシートの活用を通して、数学的思考や読解力の向上を目指す。

《チャートの特徴》

【国語】
 ◆「平均正答率」は、全国平均から1.0ポイント近く下回っている。「国語科の学習への関心」への肯定的回答は、どの項目も上回っており、全国的に国語学習を肯定的に捉えている児童が多い。
 【算数】
 ◆「平均正答率」は、全国平均より3.4ポイント下回っている。「算数科の学習への関心」への肯定的回答は、全国平均より下回った。「よく分かるか。」との設問については、-1.6ポイントであった。
 【生活・学び方等】
 ◆ほとんどの領域で全国平均を上回る結果となった。「主体的な学び」については全国平均の114%、「自己有用感」については全国平均の100%に近い数値となっており、今後も道德教育やキャリア教育等と連携させながら、更に伸ばしていきたい。
 ◆「対話的な学び」のうち、「話し合いを生かして、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるか。」との設問に対しては、全国平均を6ポイント上回っていた。一方で、「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすること」が、全国平均より-1.6ポイントであった。

《家庭・地域への働きかけ》

◆児童の学びへの関心をより高め、実態の把握のために、言葉掛けや励ましを含めて、保護者に積極的な関わりを依頼する。
 ◆ホームページ「学校日記」には、普段の教科の学習活動の様子をこまめに伝える。特に、がんばりだけでなく、課題になっていることやポイントとなることについても書き添える。
 ◆「学年×10分」の家庭学習の実施を保護者へ周知し、保護者がチェックしたり、一緒に取り組んだりするように依頼する。
 ◆家庭と連携して毎学期の「健康振り返り週間」を行い、よりよい生活習慣の定着に親子で取り組むように働きかけていく。
 ◆学校だより、学年だより、保健だより等を通して、生活習慣の実態調査の結果と課題を伝える。特に早寝早起きの習慣の定着を促していく。
 ◆全校を挙げて、東京大学の「子ども睡眠健診」の取組みと連携し、科学的専門的な観点から啓発を図る。